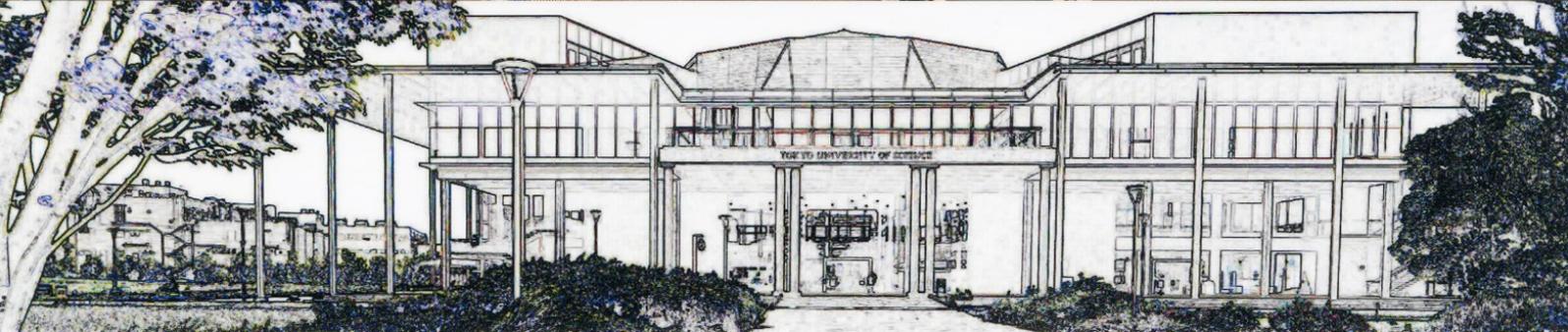




# 築理会 会報

2021 Spring vol.67

東京理科大学工学部建築学科校友会



東京理科大学 葛飾キャンパス図書館 上 閲覧室 下 正面 撮影：大岩 昭之

## 新会員（卒業生）の皆様 築理会へようこそ

築理会の活動に参加して、  
多くの卒業生と交流を楽しみませんか。

## 2021年度 築理会総会・講演会・ 懇親会をリモート開催します。

講演：「つながる建築」 広谷 純弘氏  
(株式会社アーキヴィジョン広谷スタジオ・1980年卒)

昨年企画していましたが開催できませんでした。  
楽しみにされていた方、お待たせしました。  
詳細は8Pをご覧ください。

## CONTENTS

「先輩と語る2020」SA forum	2P
会員意見アンケート総括	4P
同窓生の「今」を考える	5P～7P
インフォメーション	8P

2021年度築理会総会・講演会・懇親会案内、  
リモート新年会報告、名簿発行予定、  
会費納入のお願い、卒業制作・修士設計HPのお知らせ、  
退任教職員紹介、設計競技受賞作品紹介

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebookで配信しています。  
会報へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたらお寄せください。  
chikurikai@gmail.com



## 東京理科大学工学部建築学科・ 築理会共催／SA forum 企画運営

今年度は2つの新しい試みで開催しました。一つはリアルではなくネットワークを通じて交流を図るということ、もう一つは、建築学科のOBOGの方を招いて話をするという形式から枠を広げて、電気工学科の卒業生でコンサルティングをやっている並木さんにこれからの成熟社会について基調講演をしていただいたことです。

最初に安達さんからSA forumについて紹介があり、その後、基調講演、パネルディスカッション、参加している学生達と意見交換を行いました。

(本記事P2~P3は当日の録音から要点を抜き出してまとめました。 文責：伊藤学)

## SA forumとは

**安達 功** (日経BP総合研究所・1986年卒)

これはScience Associate forumということで、建築学科だけではなく、理科大でサイエンスを学んでいる学生のOBOGが、更に新しい産業を牽引していくような人材を生み出す勉強会ができないかということで、鈴木敦子さんを中心にこの1年間準備を進めてきました。

理科大卒業生のために新しい産業を作っていくような基盤になれないかということで、オンラインを活用して価値のある情報交流をし、それによって各方面で活躍するキーマンをどんどん集めて、母校の同窓会へ刺激とか資産を提供していこう、ということを目指しています。

理科大は理系の総合大学で、かつ、卒業生がさまざまな産業で活躍していますので、それらをネットワー

クする場を作り、我々の成長と教育の活性化につなげていきたいものです。

軸足は築理会・野田建築会ですが、建築だけで閉じていてもこれからの時代には対応できません。様々な分野から幅広い視点で産業として建築を捉えるようなことを感じ、その中でこれからの建築の仕事のあり方とか教育についても考えていきたい。これによって築理会をはじめとした関係者の帰属意識を高め、理科大のブランディングに寄与することを目的にしています。

学科とか大学を超えて連携し、今は有志の活動なのでスピードを持って新しい発想でフットワーク軽く若さと元気でどんどん刺激を与えていきたいと考えています。

学生時代にとても多くの課題をやったことを覚えていると思いますが、改めて、課題に取り組むワークショップ、RECHARRETTE (リシャレット)、という名前前でやっていってはどうかというアイデアも出ています。再び課題を考えるということで、RI KADAI (理科大) にも掛けて、建築という職能を時代が変わった今改めて考えてみよう、デザインの可能性についても改めて考えてみよう、理科大ってそもそもどうなのということを考えてみよう、というようなことをやっていきたい。課題を把握してチームで答えを出していく様な場を作りたいと思っています。

**鈴木 敦子** (エープラス株式会社・1997年卒)

「学生 & 卒業生交流会」は、リーマンショック後の就職氷河期の学生を応援するために築理会の声でスタートしたもので、時代の流れに合わせてマイナーチェンジをし、学生が卒業後の自分を具体的に考える種を毎年提供し続けています。人口減少に伴った市場や働き方などの変革は建設業界も例外ではなく、建築で閉じない知識、情報、ネットワークが求められるようになりました。母校はあらゆる産業で活躍する人材を輩出しているにもかかわらず、同窓生の繋がりは他大学と比較して薄いように思います。学部学科、組織、役職を超えたプラットフォーム (SAforum) が、同窓生や後輩に有効な情報を提供し、後輩たちは誇りをもって同窓会に参加をし、さらに母校への貢献と同窓会の発展へつながるような自然な流れが生まれることを期待しています。



当日は日経BP社の2つの会議室をお借りして、リアルとリモートで開催



**並木 将央**  
 東京理科大学大学院  
 工学研究科電気工学専攻  
 博士前期課程修了  
 (株) ロードフロンティア  
 代表取締役  
 オープンカレッジ講師

成熟社会と地域のあり方について話をしたいと思えます。

ここで地域の定義をしますと、国家は国民・主権・財産・法律です。地域は、人間が活動するところ・生活の基盤となります。会社は経済的な活動をすることで、家族は精神的な活動、自分はと言うとアイデンティティとか活力とか肉体および精神という形になります。そして、戦前は、自分が立っているところから中心に地域が広がって教育が進んでいきました。

皆さんが総理大臣だとしたら戦争で焼け野原になった日本をどうやって復興させますか。この時二つの派閥に分かれました。一つは、日本は独立国家であらねばならないとの考え方です。もう一つは、経済によって日本を発展させて、とにかく飢えのない暮らしをしよう、軍事とかそういったものは他国に任せてもいいかなってという考え方です。そして日本は経済というものを軸に進めていくこととなります。

じゃあ経済という軸になってくると一体どうなるかという話になります。まずGHQが入ったことによって地域由来の教育は廃止され、地域に対する愛着もなくなります。ついには大学を卒業してからしか自分の人生を生きていくという考え方を失くなってしまいました。

核家族化が進み、大量生産・大量消費が進んでいきます。つまり都市部に移住することがどんどん重要視されてしまうようになってしまいました。会社が強い世の中になってしまったんですね。家族と地域が弱まってしまった、これがポイントになります。

人口が増えることを前提に作られた社会なら構いませんが、今人口は減ってます。毎年、山梨県が消えていく位のスピードで減っていきます。こういう状況で今までと同じやり方が通用するでしょうか。

成長時代の幸せの定義は、便利なものに囲まれたいづもい暮らしがしたい、ということです。でも、成熟社会は誰も困っていません。

お金だけじゃなく、時間とかいろんな価値観が増えていて、成熟社会は東京に集中する必要がなくなっていることにみんな気づき始めます。物に囲まれることが幸せだと思ってきた人が、物に囲まれた後何しているのかわからない。私たちは先人たちが求めていた幸せの定義にたどり着いてしまったのです。飢えない世界、便利な世界がもう来てしまったので、これからは精神的な話が出てきます。

未来は、地域と個人が結びつきを感じてアイデンティティを作っていて、実存的虚無感を解消し、家族はワーケーションなどで地域に根ざした生活を行うようになってきます。

多分これからの時代、新しい建築物を作るのではなく、新しい価値やコンセプトを提案していく必要があるのだと思います。それなので、地域のリノベーションがこれからすごく求められます。成熟社会では誰も困っていません。情報過多の中では共感したものしか記憶に残りません。

この共感するっていうところをすごく重要視しなきゃいけないからデザイン思考という話が出てきます。

ビジネスも建築もコンセプトによる共感で先にお金をいただいてから作るっていう概念がこれから広まってきます。共感を得るためにはコンセプトで、コンセプトを出して共感が得られなかったら作らなければいいということになります。

企業が商品やサービスの価値を創り出し顧客が選択するという消費から、顧客と交流して企業が一緒に価値をつくるのが求められる時代になってきました。

### <オープンカレッジ>

「理科大で再び学ぶ」というプラットフォームで年間200講座ぐらいビジネスのプログラムが用意されています。スキルのブラッシュアップにつながるような切っ掛け作りを狙っていて、20歳位から90歳位の方に利用されています。講師には、著名な方、理科大・他大学の先生、OBOGの方もいます。

鋼骨トップ・プレートジョイント工法 エクス・ティービー

**ECS-TP** (Top Plate)

鉄骨構造物に革命を。  
杭と柱の一体化。

株式会社 三誠  
SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp  
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所

**エア一断震住宅** 株式会社 三誠 AIR断震システム  
http://www.airdانشin.jp/

究極の地震対策住宅 国土交通大臣認定取得 国住指第 2036号

①通常時 地震センサーが常にゆれを監視しています。

②地震発生時 地震センサーが一層以上の地震波を検出すると即時にエアダンクから空気が送られて家を浮かし、揺れを断ちます。

大地震が来て大丈夫  
原価7割の揺れを1/30に軽減。『エア一断震住宅』なら、毎日を中心して暮らせます。

## 築理会アンケート結果から考える

築理会の皆様、昨年はアンケートへのご協力ありがとうございました。

築理会活動に関するアンケートについて、その後の状況はあまり変わらず回答総数は67名です。この数のアンケート結果をもって、分析や傾向を語ることは意味をなさないと思われ、興味を示していただいている会員方々の自由意見として、考察をしてみました。

キーワードを拾い出すといくつかのグループに集約できそうです。

まずは【対象】です。“幅広い、多くの、多様な、若手、広がり、現役生、建築以外の人”というフレーズがあります。建築学科卒業生全体のための組織ですから、至極当然な意見です。今回の回答者とする30代から50代に占められ、大先輩たちの意見はあまり出てきていないようです。

次に【目的】です。“多様な目的、期待値はそれぞれ、選択し活動”と、これもまた多様性を望む声が多くあります。

対象と目的が多様となると、企画内容や活動形態が分散的になり、継続性・一貫性がなくインパクトに欠ける、何を狙っていたのかわからない、というような批判が出そうです。

【活動時間の制約】という悩み・意見も出ました。“平日は無理、休日夜間での活動、運営委員の負担減、割ける時間に差”というものです。確かに定期会合にしても、回数が多ければ負担になるし、少なければ欠席した場合の意味合いが大きくなります。仕事や生活は人それぞれ多様であり、会合を開くときの参加者のスケジュールの調整もひと苦労です。何かを担当するとある種の責任も感じるようになってしまい、それが負担に感じるという人もいます。

【わかりにくさ】ということも指摘に上がりました。“透明化、会の方針とは、会費の使われ方、何をやっているのか”と厳しいものでした。近年はホームページ・会報・メルマガ配信、フェイスブックなど、伝達手段も数多くなりました。しかしながら、なかなか実態が伝わらない現実があります。このように、透明性に欠けるという感覚が、会費納入に対する精神的障害になっているのかもしれない。大事な部分です。

現実的な話として、【メリット】に注目する意見もありました。“業界内の交流、知名度、人脈形成、世の中にアピール、有益なコンテンツ、情報交換の場”というものです。メリットがないと参加しないのかという憤る人もいますが、築理会を利用して何かをしたい、という気持ちは素直な願望だと思えます。

最後に、【IT時代】の意見もありました。“netで配信、名簿の電子化”というものです。これは、年代によって受け入れ方は全く違うのかもしれませんが、紙媒体が電子媒体かという議論は常にありますが、今後のことを考えると時代の流れには逆らえないでしょう。利便性や編集手間が全く違ってきます。ただし、そのことで疎外されてしまう人が出ないように、どこまで配慮したらよいか、とても悩ましいところです。

ここまでのことをまとめますと、

- 多様な人が多様なことをできる場でありたい。
- その活動が外からよくわかると参加しやすい。
- 見ればすぐわかるような、常設的な場（プロジェクト、同好会、サイバースペース、地方支部）があったらいい。

ということでしょうか。その際に、

- 時間空間の制約をなくせるようIT技術を使い、
  - 特定の活動だけに気軽に参加できる、
- ようにすると、参加の可能性が大きく広がるのかもしれない。

今回このアンケートに回答していただいた方は、築理会に関心を持たれている方々だと思います。一方、回答できなかった方々の中にも、関心のある人はまだまだ多くいらっしゃると思います。そのようなOBOG諸兄が、もう一歩踏み出して参加いただけるよう、今後も工夫を重ねていきたいと思えます。

## 築理会員へのアンケートから見えるもの

築理会会長 佐野吉彦

まず、会の活動目的については、多様性を望む声が多くありました。どの世代にも居心地の良い会が期待されています。一方で、会員相互の情報交換の場としての同窓会、会員が社会に向けてアピールするときに「背中を押す」積極的な同窓会活動への期待もあります。

この1年、築理会の活動はオンラインを中心として進めてきました。それこそ大きなチャレンジであり、その中から新たなつながりが増えたのは幸いでした。しかし、この会報やメルマガ、フェイスブックやホームページなどをさらに活用し、活動情報をていねいに伝える必要があることが、アンケートの回答からも感じ取れます。それが会費納入増・参加促進につながるならば、その充実重要です。

まだまだオンラインは進化の途上ですが、これをうまく力にする「同窓会の未来形」が求められているように感じています。回答をふまえて、各自の時間の制約や関心に合わせ、気軽に参加できる行事やセミナーの開催をもっと企画する必要もありそうです。

それとともに、今年計画している名簿発行についても、紙媒体から電子媒体への転換を見据えてゆきたいと思えます。そのほかいろいろご意見をいつでもお待ちしております。

## 同窓生の「今」を考える

築理会員は多世代に渡り、建築業界に限らず様々な活動をしています。新会員に向けて、今の築理会員の方々の「今」について、仕事に限らず、取り組まれていることをお聞きしました。

また、ご寄稿いただいた会員の方々の出身地や好きな建物等の特徴や新会員に向けたメッセージをプロフィールとして紹介いたします。

### profile

- ①出身地 ②好きな建物 ③今まで仕事等でやってきたこと
- ④今後取り組みたいこと ⑤新会員へ一言

### 温浴を通じたリラックス空間のデザイン



伊藤まゆみ  
2017年卒  
宇野研究室  
東京工業大 修士課程  
塩崎太伸研究室  
profile

- ①神奈川県 ②ヒルサイドテラス
- ③日本の公共空間にある足湯の研究
- ④足湯の制作、日本足湯文化論を語りたい
- ⑤師のお言葉「迷ったら手を動かす」

私は温浴を通じたリラックス空間のデザインをテーマに活動しています。2019年には留学先の北欧フィンランドにて、移動式足湯「The Mobile Footbath」を友人たちと制作して都市へ持ちこみ社会実験を行いました。着想を得たのは現地体験した「モバイルサウナカー」と日本の「足湯」。両者にはリラックスという共通点があり、身体的な癒しは勿論、その場で生まれる対話によって精神的な心地よさも感じることができます。モバイルサウナのモビリティと性別や宗教を問わない足湯の気軽さを組み合わせるとモバイル足湯が生まれました。

設計では(1)エレベーターやメトロで持ち運べるコンパクト性(2)入っている人全員で一つのトピックが共有でき、周囲の人とも同じ視線となる寸法や、説明書きを置かないことで対話を生み出す工夫(3)サーモウッドや植物オイルなど環境にやさしい素材を選定することに配慮しました。

実際に駅前広場や公園などの公共空間にて無料で足湯を設けた際には、国際色豊かなヘルシンキを舞台に立場や所属を超えた多様な交流を生み出すことができました。アアルト大学では新入生や留学生、在学生在が輪を超えて打ち解け、街角ではフィンランド人と移民がそれぞれの国の言葉を教え合ったり、ニュースでは対立的

に取り上げられる国の二人が互いの国を理解しようとして、言葉が通じなくても盛りあがる等、それぞれの別で固まっていた小さなグループが、足湯の周りでは交流が深まった実感を得ました。

一連の活動は SDGs Design International Awards 2019 で「国籍、民族、年齢を超えて多様な人が共生するためのデザイン」として評価を得ました。現在は日本で足湯を研究しており、温浴空間をデザインしながら文化を発信する人材になることが将来の目標です。卒業から数年経った今も「手を動かす」という先生の言葉を思い出しては自分に喝を入れる日々です。卒業する皆さま、学び舎での思い出を大切に。一緒に未来をつくりましょう。

### 物事の“見方を変える”デザイン



小泉大河  
2014年卒  
山名研究室  
株式会社HAGI STUDIO  
profile

- ①神奈川県 ②プノンペンオリンピックスタジアム
- ③旅館・店舗・事務所等のリノベーション
- ④まずは今の自宅の改修をしたいです。
- ⑤自分が楽しいと思える事を追究してください。

株式会社HAGI STUDIOで設計の仕事をしています。HAGI STUDIOは設計だけでなく飲食業や旅館業も行っているため、スタッフにも様々な人がいます。自社施設のDIYも多いですし、部門横断的なプロジェクトの企画をすることもあります。もちろん対外的な仕事もあり、様々な企業の方と仕事をさせていただいています。

私たちは物事の“見方を変える”デザインを常に考えています。例えば弊社が運営している「hanare」は普段生活しているまちの様々な要素をホテルのコンテンツに見立て、まち全体をホテルにした宿泊施設です。

そのコンセプトは今“まちやど”として全国に広がっています。昨年は西日暮里駅前に小商いのコンプレックスとして「西日暮里スクランブル」をオープンしました。今あるまちの要素と、まちをさらに面白くする新しい種をまぜる試みです。

ひとつの商業施設で完結するのではなく、ここを結節点として人やモノがまちに広がっていくことを目論んでいます。“こうあるべき”という固定観念を取り去って、ポジティブに捉えられていなかった要素をも逆転させるデザインを目指しています。

現在は、同一敷地内に信用金庫とFMラジオ局を建てるという少しかわったプロジェクトに取り組んでいます。

信用金庫は築60年近い建物をリノベーション（2500㎡程度）し、FMラジオ局は新築（1500㎡程度）の計画です。従来用がある人しか立ち寄らなかった信用金庫の建物に、様々な人が利用できる場所を設けることで、今までになかった信用金庫のあり方を提案しています。ラジオ局は建物間の広場に対して開かれたつくりとすることで、2つの建物同士が一体的に使われるような工夫をしています。広場の維持管理を2社が協働して行える仕組みも併せて作っています。今年（2021年）春に工事着工、2022年にオープン予定です。

HAGI STUDIOが手掛ける案件は用途も規模も様々ですが、ただ建物を建てるだけでなく、建てた後その建物を通して生まれる人の繋がりやまちとの関係を同時にデザインしています。

## 建築にかかわった30年を振り返る



杉本由美子  
2005年卒  
倉淵研究室  
株式会社杉本建築設計事務所  
profile

- ①千葉県柏市 ②香川県庁舎東館
- ③設計監理、建築紛争処理業務
- ④他の業界とのコラボレーションを通しての活動、建築士の地位の向上
- ⑤建築は大変だけど、のめりこむと抜けられないくらい、おもしろいです。このおもしろさをぜひ味わってみてください。

設計の仕事をはじめて30年、独立して21年、そして社会人学生として編入した東京理科大学の卒業を経て大学院を修了から14年が経ちます。改めて、今までのそして現在の業務内容の変化について振り返ってみます。

まず、設計事務所の通常の業務である設計・監理業務について、当初は、木造2階建ての住宅をメインにおこなっていましたが、現在では、鉄筋コンクリート造や鉄骨造が多くなっています。用途については、その時勢が大きく影響しているようで、5～6年前は、『サービス付高齢者住宅』、その後、民泊用のビルとしての共同住宅の設計が増え、その後、民泊ビルを旅館ホテルに用途変更の設計、そして今はコロナで家にいる時間が増えた影響でしょうか？住宅の依頼が増えつつあります。また、築地市場から豊洲市場に移転する時に、飲食店舗の依頼を受けたことがきっかけとなり、飲食店の依頼を受けるようになりました。店舗設計業務は、新築をおこなう設計業務とは、クライアントも施工業者も違う。はじめは短期決戦の勢いにとまどいつつも今ではそれを楽しんでいます。

それから、ここ10年近くは、本来の設計以外の業務と

して、他の業種の専門家の方とご一緒する機会が多くなりました。

まずは、建築紛争処理業務。現在、国土交通省建設工事紛争審査会、東京都建設工事紛争審査会、東京の三弁護士会で、調停員として弁護士の先生方と一緒に、建築関係の調停・斡旋業務をおこなっています。

また、台東区に活動拠点を有する『台東区災害ネットワーク専門職会議』の一員として専門職共同相談会等の活動を行っています。この集まりは専門職である各10士業（弁護士、司法書士、行政書士、社労士、建築士、税理士、土地家屋調査士、不動産鑑定士、中小企業診断士、宅地建物取引士）がネットワークを形成し、専門知識を結集して震災問題に取り組むことを目的とする専門職の組織です。

これら、他の業種の方とご一緒することにより、建築業界のいい点、問題点などに気が付くこともあり、大変いい経験となっています。

## 違いを楽しんで成長につなげる



中井崇義  
2004年卒  
鈴木研究室  
株式会社中井組・  
株式会社大洋土地 i  
profile

- ①和歌山県 ②マルコデカナヴェーゼス教会
- ③建設・教育事業の経営 ④働き甲斐の創出
- ⑤自由な発想で主体的にチャレンジしてください。

私は大学院を卒業したあと、設計事務所に勤務し、2011年に地元である和歌山に戻りました。和歌山では家業である建設業と教育事業に携わっています。

家業である建設業は創業が大正11年で、もうすぐ創業100年となります。私は若輩者ながら2019年から代表となり歴史の重みを日々感じながら精進しています。

また2007年から始めている教育事業では、FCで学習塾の経営をしています。こちらは2015年から代表となり、当初5校舎でしたが2021年現在47校舎を運営しています。

東京から和歌山に戻ったときはいろいろなギャップがあり戸惑いました。首都圏と地方の考え方の違い、設計者と施工者の考え方の違いなど、ある意味カルチャーショックのようなものを受けました。そして、いろいろ変えよう変えようと苦心しましたが、なかなかうまく行かず挫けることが多々ありました。それは現在でも続いています。徐々に良い方向に進めて行ければと考えています。

建設施工と教育事業は全く畑違いのように感じられる方もいると思いますし、確かに全く違います。何が違う

かという、仕事の内容はもちろんですが、そこで働くひとの考えや性格が全く違い面白いです。学校のクラスに例えると、まったく交わることの無いグループ同士といったところかもしれません。それら違う分野をクロスオーバーすることで、新しい気付きや発見があり大変面白く感じます。またお互いに研修などを行うことで、お互いの成長につながることもあります。違う分野ですが、根底にあるものは実は同じで、地域貢献と人材育成ですので、共鳴する部分が当然あります。

既存のもの、新しいもの、違う分野のものが刺激しあい、良いものが生まれればと考えています。

今後も、大学で学んだ建築の考え方を基礎に、会社のハード面・ソフト面の設計を行い、より働きやすく、働き甲斐のある環境の創造に努めて行こうと考えています。

## イスラエル旅行記 (2020年1月)



エルサレム (カルド) にて

三浦博範  
1998年卒  
安岡研究室  
サンデン・リテール  
システム株式会社  
profile

- ①東京都 ②サグラダ・ファミリア聖堂
- ③住宅設計、設備設計、施工管理
- ④自宅の建替 ⑤思い立ったら行動してみましょう。

毎年仕事の合間を縫って海外旅行に行っており、彼此70カ国になろうとしています。その中で最新のイスラエル旅行について書きます。

ユダヤ教は理解出来ない所が多々あり、実際に体感してみたいという衝動に駆られ、気付いたらエルサレムにいました。三大宗教の聖地であり、イエスが活躍した場所ですが、今まで行った国の中で最も異質な国でした。近隣シリアでは内戦中の為、治安が悪いというイメージがありますが、政治的に安定期であれば観光も問題ありません。

歴史的には、旧約聖書以前、ローマ帝国時代、イスラム帝国時代、第二次世界大戦以後に大別され各情勢下

で波乱に満ちていて、とても興味深く感じています。

古い都市はエルサレム、ナザレ、エリコなど宗教色が強い建物が、テルアビブ、ハイファなどの新しい都市は宗教色を排除したシンプルなデザインの建物が多く、対照的な所が興味深かったです。

ベツレヘムのパレスチナ自治区では、分離壁の落書きに観光客が集まり、本来の問題が形骸化されていますが、実際の問題は解決されず深刻なようです。

毎週金曜日の日没から土曜日の日没まで全ての公共交通機関とレストランが閉鎖され、金曜日は夕食が取れず、土曜日の帰国時に一時混乱しました。実際はタクシーと空港は動いていた為、ことなきを得ましたが、緊急事態時を前もって疑似体験することとなりました。ユダヤ教徒は週末労働をしてはいけないという理由からだそう、貴重な体験をしたと思うようにしています。

東京の駅前でシルバーのアクセサリーを屋台で販売している外国人を見かけたことがありますでしょうか。それは大抵兵役後に長期旅行に来たイスラエル人が小遣い稼ぎをしている場合がほとんどであることを聞いて笑ってしまいました。

まだまだ書きたいことがありますが、紙面の都合上出来ません。今後HPで旅行記を連載で綴って行きたいと思います。興味がありましたらご覧になって下さい。



エルサレム (嘆きの壁)



ベツレヘム (分離壁)

令和2年度  
**1級建築士試験**

**No.1**

合格者占有率

令和2年度 1級建築士設計製図試験  
全国合格者3,796名中 / 当学院当年度受講生2,041名  
全国合格者占有率53.8%

総合資格学院は**東京都も全国も**  
合格実績No.1

学科+設計製図試験  
**東京都 ストレート**  
合格者占有率 **63.8%**  
東京都ストレート合格者 475名中 / 当学院当年度受講生 303名

設計製図試験  
**東京理科大学**  
卒業生当学院占有率 **57.4%**  
東京理科大学卒業生合格者141名中 / 当学院当年度受講生81名

学院長: 岸 隆司

**総合資格学院**

全国約100拠点

北千住校 TEL.03-5284-3911  
足立区千住3-9-8  
千住ミルティクスII南館 4F

Twitter ⇒ @shikaku\_sogo LINE ⇒ [総合資格学院]  
Facebook ⇒ [総合資格 布] で検索!

スクールサイト [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp)  
コーポレートサイト [www.sogoshikaku.co.jp](http://www.sogoshikaku.co.jp)

法定講習実施中

一級・二級・木造建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習

開講講座 | 1級・2級 建築士/建築・土木・管工事・造園施工管理/構造・設備設計1級建築士/建築設備士/宅建士/インテリアコーディネーター/賃貸不動産経営管理士

※卒業学校別合格者数は、試験実施機関である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。 ※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。 ※全国・都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図ストレート合格者とは、令和2年度1級建築士学科試験に合格し、令和2年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和2年12月25日現在)

## 2021年度 築理会総会・講演会・懇親会

新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、リモート開催を予定しています（会場開催との併用となる場合もあります）。今年は講演会も開催します。地方、海外在住の方を始め、これまで参加が難しかった方も含め、この機会でのご参加をお待ちしています。



日程：5月15日（土）  
14:30 開始予定  
リモート参加の場合、会費不要

### 講演：「つながる建築」

広谷 純弘氏 (Hirofumi Hirofumi)  
(株式会社アーキヴィジョン広谷  
スタジオ・1980年卒)

昨年は中止となった講演会ですが、改めて2020年度開設の社会人コース嘱託教授として着任された広谷純弘氏を講師としてお迎えします。

詳細及び参加申込方法はFacebook、メルマガ、ホームページにてお知らせします。プログラムの一部だけのご参加も可能です。

## リモート新年会開催

11都府県に緊急事態宣言が出る中、新年会を1月16日（土）にリモート方式で開催しました。新たな試みとして、山澤 正氏（UR都市再生機構ウェルフェア・1991年卒）にご講演いただき、UR都市再生機構の団地再生事業を中心とした興味深いお話を伺いました。その後は37名の参加者で活発な意見交換がなされました。有意義な新年のひとつとなりました。

## 名簿発行予定

2021年度は会員名簿の発行を予定しています。名簿記載情報に変更がある方は事務局までお知らせください（名簿非掲載のご希望も承ります）。名簿は会費を納入されている会員に発送します。今後は名簿のデジタル化にも取り組む予定です。

## 会費納入のお願い

築理会は皆様の会費により活動しています。卒業生、在校生への多様な活動のために、会費の納入をお願いします。会費は3,500円/年です。同封の振込用紙にて納入してください。卒業後30年を経過した卒業生には終身会員制度があります。詳細はホームページでご確認ください。

## 卒業制作・修士設計HPのお知らせ

本年度から東京理科大学工学部建築学科卒業制作・修士設計のウェブサイトができました。QRコードもしくは下記のURLよりご覧いただけます。

<https://tus-projects.jp>

制作：こづゆウェブデザイン事務所、高 佳音  
石樽 督和、櫻井 雄大、晴彦、本山 真一郎



## 退任教職員紹介

池田 伸太郎 助教（長井研究室） 退任後：東京工業大学	石樽 督和 助教（伊藤裕久研究室） 退任後：関西学院大学
櫻井 雄大 助教（郷田研究室） 退任後：東京大学	鍋島 国彦 助教（高橋研究室） 退任後：広島大学
常山 未央 特別講師 退任後：Studio mnm	本山 真一郎 補手（熊谷研究室） 退任後： 株式会社 千田建築設計

## 設計競技 受賞作品紹介

本年度の建築学科学学生の受賞作品を紹介します。

### 2020年度支部共通事業 日本建築学会設計競技 / 全国入選



Title : Phenomenal Encounter

富田深太郎 (M1)/ 高橋駿太 (M1)/ 田島佑一郎 (M2)

### 2020年度支部共通事業 日本建築学会設計競技 / 全国入選



Title : Soft border houses

楊 葉靈 (D1)/ 恒川紘和 (M1)/ 佐々木里佳 (M1)/ 田中大我 (M2)

### 第7回 POLUS-ポラス- 学生・建築デザインコンペティション/優秀賞



Title : 水回りの廻りから

八木のみ (B4)/ 中村太紀 (M1)/ 山本尚弘 (M2)

### 「アフターコロナの世界」コンペティション / 浅子佳英賞



Title : 表出ジェンガ

小出幸次郎 (M2)/ 本田晃一 (M1)/ 上村麻希子 (B4)/ 松本由真奈 (B4)

編集長：近藤 剛啓

編集委員：古池 廣行、野田 正治、飯山 道久、荒井 眞一郎、  
浦山 千明、森 清、伊藤 学、高橋 潤子、  
阿久津 好太、熊谷 一清、鈴木 敦子、三浦 博範、  
栢木 まどか、渡邊 杏奈、山岸 隆、本山 真一郎

編集後記：(本山 真一郎)

今年度より築理会情報広報委員会に参加しました。2週間に1度の会議を重ね、本号も無事発行となりました。

10年間お世話になった理科大へ委員会での活動を持ってお返しできればと思います。本年度卒業・修了の皆様、おめでとうございます。理科大の先輩方や仲間たちとの繋がりを大切に、それぞれの人生を歩んでください。